

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0992500017		
法人名	社会福祉法人同愛会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム四季の空		
所在地	栃木県那須塩原市二区町352-180 (電話) 0287-37-8871		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年2月29日	評価確定日	平成20年3月24日

【情報提供票より】(平成20年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤6人(うち兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算6.375人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	・光熱水費-10,000円/月	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,600 円	

(4) 利用者の概要(平成20年2月10日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	那須中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム四季の空は、平成18年4月に社会福祉法人同愛会が旧西那須野町地区では最初に開設した認知症高齢者グループホームである。建物は木造平屋建1ユニットでホーム内の敷地は広く、職員の目配りもあって日中玄関の鍵は掛けず入居者の自由な生活を支えている。また入浴等、入居者一人ひとりの希望に応じた支援が行われ、職員間でのケアの方針等の共有も図られている。より高いサービスを目指して実践に取り組んでいるグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善点は、運営推進会議で報告・提示し、意見交換をして、改善できるものから改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者が職員に評価票を配布し、各職員が自己評価に取り組み、話し合いを行い、最終的に管理者が集約した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は本年度2回開催されている。構成は、市職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、入居者及び家族となっている。会議ではホームにおける現状報告等をしたり、意見交換をしている。平成19年度において市の相談訪問事業を3回利用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時には声かけをし、入居者の状況を伝えたり要望を伺っている。「ホームだより」の作成を現在検討中である。苦情解決体制を整えており、重要事項説明書に苦情受付担当者、市・国保連の連絡先が明記されている。意見箱も設置しているが、現在までに意見や苦情は寄せられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、回覧板を回すなどしている。運営推進会議にも自治会長が参画しており、連携が図られている。現在のところ近隣の人達との日常的な交流はないが、自治会の協力を得ながら更にホームのPRを図り、行事等の際に積極的な呼びかけをして交流を図れるよう検討している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を事業所理念としていたが、新たに「地域のなかでその人らしく生活することを支えるケア」という理念を掲げ、その実現を図るための実践を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングや毎日の申し送り時に理念について確認し合い、理念の共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや公民館祭りに参加して交流を図っている。自治会に加入し、回覧板を回すなどしている。近隣の方々には、ホームの行事への参加を呼びかけているが交流は少ない。	○	ホーム独自の行事をより多く企画したり、チラシ等を作成して地域の人々により積極的な参加の呼びかけをするなどして、更に地域の人々との交流を図っていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価については、運営推進会議で報告して意見をもらい、改善できるものから改善に取り組んでいる。今回の自己評価は職員に評価票を配布して、各職員が自己評価に取り組み、話し合いを行い、最終的に管理者が集約した。		

認知症高齢者グループホーム四季の空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは行政職員と地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族、入居者となっている。本年度は2回開催されており、ホームの現状報告をしたり、意見交換を行っている。	○	運営推進会議の開催回数を検討することに期待したい。また、メンバーからの意見や助言をもらいやすいような情報提供の仕方を工夫するなど更に充実を図っていくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは必要に応じて連携が図られている。	○	ホームとしては、事業所の実情や取組みを折に触れて、継続的に市に伝えていこうと考えているので、連携を更に深めて一緒にサービスの質の向上に取り組んでいく関係づくりを深めていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等への報告については、家族の面会時に声かけをして、健康状態を報告したり、金銭出納帳を確認してもらったり、職員の紹介等をしている。「家族だより」の作成について現在検討中である。	○	「家族だより」の作成を検討しているので、写真なども活用しながら入居者の日常の様子等を定期的に家族に報告する機会という意味でも実現に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、苦情相談窓口としてホーム、市、国保連の窓口が明記されている。玄関に意見箱を設置している。職員は家族とのつながりを大切にしており、家族の面会時には必ず声かけをして家族との意見交換をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、法人内異動1名と離職者3名がいたが、入居者及び家族に対して適切な説明をして入居者へのダメージを最小限に抑える努力をしている。		

認知症高齢者グループホーム四季の空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修の年間計画を作成し、2ヶ月に1回勉強会を実施している。法人内研修も年1回実施されており、参加できない職員には伝達研修も行われている。外部研修については認知症高齢者関係の研修に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し、また市の地域密着型サービス事業連絡協議会に参加している。会議、研修の場で積極的に意見交換をして交流を図り、ホームのサービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が家庭を訪問して本人及び家族に面談し、本人及び家族にホームを見学してもらい、わかりやすく説明し、本人が安心して納得して入居できるように本人の意思を尊重しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、忙しい時間帯に入居者からいたわりの言葉をかけられた時など心が癒されたりしている。入居者と職員との信頼関係が築かれ、共に支えあう関係ができている。		

認知症高齢者グループホーム四季の空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における関わりの中で、入居者に声をかけ、言葉や表情などから入居者一人ひとりが求めていることを把握している。希望等の意向の表出が困難な場合には、家族の協力を得て意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時を利用して、本人・家族と相談し、意見や要望を踏まえて介護計画を作成し、説明のうえ同意を得ている。また、申し送り時の職員の気づきや提案を介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月を目安にしている。状態の変化時には本人・家族と話し合い、見直しの検討をして、適宜見直しをし、家族の同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算により、看護師を職員として配置している。また介護相談員も受け入れており、本人や家族の要望に応じた柔軟な対応に努めている。		

認知症高齢者グループホーム四季の空


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。急な容体の変化時の対応については職員（看護師）が同行して協力病院で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望があれば対応する必要性を感じており、重度化に伴う指針に基づき説明し、家族と話し合いをしている。終末期ケア、看取りについては同一法人の介護マニュアルに基づいて職員間で話し合いを行い共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重して日々の声かけや対応について職員間で共有を図りながら対応している。記録等の個人情報の取り扱いについては同一法人の個人情報保護方針により対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが日課は特に決めていない。入居者一人ひとりの体調に配慮しながら支援している。訪問時にも居室で過ごしたり、リビング兼食堂で職員と談笑する姿が見受けられた。		

認知症高齢者グループホーム四季の空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに配慮し、入居者と話し合いながら献立を作成している。職員も入居者と同じものを食し、職員の席はサポートの必要がある入居者の隣とするなど、グループバランスにも配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日対応できるようになっている。基本的に入浴は午後であるが、入居者の要望により就寝時間前に入浴も実施されており、入居者の好きな時間帯に入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護度の低い入居者が、毎日ではないが、職員と一緒に介護度の高い入居者の着替え等を手伝ったりもしている。月1回のドライブや外食等、気晴らしの機会も取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の機会は少ない状況である。職員と一緒に買い物に行くほか、月1回のドライブを兼ねた外出の機会を設けている。	○	入居者が自由に外に出る雰囲気づくりや日常的な散歩、行事的な外出の機会のあり方などについて更に検討してみることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせず、鍵をかけないケアの実践をしている。		

認知症高齢者グループホーム四季の空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを基に、消防署の指導により年2回の避難訓練を実施している。また、定期的に消火器や火災報知機の点検を行い、避難経路などの確認を行っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が栄養バランスに配慮しながら献立を作成し、支援している。水分摂取についてはチェック表を用いて十分に摂取できるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂は広く、畳も用意され、日差しはカーテンで調整している。明るく清潔感が保たれている。フロア全体に床暖房が設置されている。設備や調度品は家庭的なものが使われ、居心地のよい家庭的な雰囲気づくりを心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の馴染みのものが自由に持込まれている。花が飾られ、写真や着ていた洋服等が多数持込まれるなど、入居者が居心地よく過ごせるよう家族の協力を得ながら支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。